

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	末寄 雅美	職名	教授	学位	修士 (教育学) (九州大学大学院 1998 年)
----	-------	----	----	----	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
保育者養成教育	実習指導、環境遊び、体験学習など

研 究 課 題
① 2年間の保育者養成における体験的な学びを通じた保育観・子ども観の育成—環境遊びを中心として ② 保育者養成教育における実習での保育の記録のあり方 ③ 現場保育者向けの生活体験プログラムの構築 (フィールドワーク) ④ 遊び技術を向上する保育士の研修のあり方

担 当 授 業 科 目
教育実習指導 (通年・1/2 年) 子ども学基礎演習 (通年) こども学特別演習 (通年) 保育原理 (前期) 教育原理(前期) 保育・教育実践演習 (後期) 子どもと環境 (前期) 保育メディア演習 (後期) 保育内容「環境」の指導法 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育原理】 保育に関わる基礎的な概念や子ども理解のベースとなる授業内容のため、学生にとって出来るだけ分かりやすく、かつ基本的事項を確実に身につけられるような工夫として、テーマ別のノートプリントを作成し、それをもとに授業を進行した。遠隔授業となったため、学生の学習ペースに十分配慮しながら授業進行を行った。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
授業科目名【教育原理】 保育をとりまく状況についてできるだけ新しい情報に基づいたものとなるよう、また学生が「教育」に対し日常的に興味関心を深められるような授業内容となるよう改善を行った。学生の学習ペースが保てるようノートプリント形式のプリントを配布し、要点をまとめやすくした。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
授業科目名【子どもと環境】 カリキュラム変更による新規科目。「幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領」における5領域の「環境」について、そのねらいや内容、取り扱いについて、一つ一つ解説し、授業を進めた。入学して間もないため「幼稚園教育要領」等の文書や5領域の意義などから丁寧に説明を行い、毎回復習プリントで学習内容を確認し、理解の定着を図った。加えて、保育における遊びの意義や遊び環境との関係、遊びを引き出す玩具や教材、環境設定と保育のねらいとの関連など、概説的に取り扱った。できるだけわかりやすく説明することを心がけたため、学生の最終成績は非常に良好であった。

授業科目名【保育内容「環境」の指導法】

今年度から設置された新たな科目。前期科目「子どもと環境」と内容を関連させた。

前年度までは「保育内容「環境」」の授業で扱っていた内容から演習や実技的な内容を中心に授業内容を構成した。授業前半では、屋外での体験学習を中心に授業を組み立てた。特に、自然や生活環境への関心が高まるよう工夫した。

保育活動で利用する様々な教材と思考力の発達について、映像教材や実物を用いたりしながら授業を進めた。

授業後半は、学生による「模擬保育」を行った。グループ毎に企画書を作成し、与えられたテーマに基づいた活動を行った。実技を行い振り返りを行うことで、学生の理解が深まっただけでなく、活動の楽しさを実感できたようである。

授業科目名【保育メディア演習】

授業の前半では、メディア環境をテーマにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。また、「認定絵本士養成指定講座」に関わる3コマの授業では、外部講師と連携しながら授業を行い、絵本や情報社会との関連について、より学生の理解が深まったと思われる。特に、大学図書館職員からの授業では、絵本検索を通じて絵本の関心を深める非常に良い機会となった。

授業科目名【教育実習指導】

「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」と段階的に行われる実習に対し、学生がそれぞれ課題意識を持ちながら臨めるような指導を行った。

実習事後指導では一人一人の学生に対し面談を行い、また丁寧な日誌指導を行った。実習報告会は対面で実施し、学生自身が自分の学びを客観的に振り返って後輩にプレゼンテーションする場を設けたりと主体的な学びになる工夫を行った。特に「教材研究」として、一年次には手遊び、二年進級時にはペープサートなどの教材作成と実演、二年後期では現場で継続的に使用できる教材の作成と実演を行った。

授業科目名【保育・教職実践演習(幼稚園)】

現場での保育実践を見越したアクティブ・ラーニングの授業を行った。学生の主体的な学びとなる「模擬保育」では、クラス毎に二人一組で指導案作成と模擬保育の進行を行い、他の学生は子ども役・観察者となり実践後には意見交換を行う内容で、学生個々人の学びと実習経験が生きる授業となった。「実践に学ぶ」では、保育の実践記録を読み合い意見交換を行った。卒後1年目の卒業生を招いた授業では、現場での実践を想定しながら学生が話を聞いていた。いずれも、学生が授業への参加意識が高まるような工夫を行っている。

授業科目名【子ども学基礎演習】

科目の主担当者として全体計画を作成した。ゼミ毎での活動を軸として、学生が話しやすい雰囲気作りや学習成果を実感できる活動への取り組みなど様々な工夫を行った。「認定絵本士」養成指定講座は複数回実施したが、特に外部講師を招いた授業では、認定絵本士としての実践力を高められるよう工夫と努力を行った。

個別に担当したゼミ活動では、学生の懇親を深めつつ保育への理解につながるような活動を工夫しながら行った。後期は科学遊びや時季に合わせた簡単な工作遊びなど、学生がやりたい活動を決めて主体的に実施できるよう支援的な役割で関わった。

授業科目名【こども学特別演習】

2年次のゼミ活動の科目のため、体験的な学習をできるだけ行えるよう工夫した。学外授業は、今年度も動物園（到津の森公園）訪問を行い、加えて学生の要望から新しく開館した「北九州ラボ」（青少年科学館）への訪問も行った。また、「科学遊び」のテーマでは紙飛行機やシャボン玉遊びやスライム作り、クリスマスリース作りの際には、学内の自然環境を活用する作品作りなど学生が科学的な活動に関心を高められるような工夫を行った。人数も少なく、日常的に仲が良い学生たちだったため、年間を通して和気藹々としたゼミ活動となった。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本保育学会 日本保育者養成教育学会 日本社会教育学会 日本生活体験学習学会 九州教育学会	理事 (2004-2010年、2018年-) 事務局幹事 (1996-1998年)	2013年5月～ 現在に至る 2017年3月～ 現在に至る 1996年4月～ 現在に至る 1998年10月～ 現在に至る 1996年4月～ 現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 保育者の資質としての運動指導観と遊び環境への理解の変容－2年間の養成課程の学びと実習を通して	共著	令和5年3月	西南女学院大学紀要 26巻	保育者養成課程の学生(短期大学)を対象に行った2ヶ年調査の結果分析。保育者として求められる資質が2年間の間にどのように変容しながら育成されるのか、また資質の要素がどのように相関をもつのか、継続的な研究を行っており、今回は「運動指導観」「遊び環境への理解」に焦点を当てた分析を行った。両者の要素には明確な創刊は無く、運動指導観は2年次に低下すること、遊び環境への理解は入学時に低い学生は実習経験と共に理解が高まることが明らかになった。 篠木賢一・末寄雅美・阿南寿美子・笠修彰・命婦恭子
2. 保育者養成における援助観の縦断的調査	共著	令和5年3月	西南女学院大学紀要 26巻	保育者養成課程の学生(短期大学)を対象に行った2ヶ年調査の結果分析。保育者として求められる資質が2年間の間にどのように変容しながら育成されるのか、また資質の要素がどのように相関をもつのか、継続的な研究を行っており、今回は「援助観」に焦点を当てた分析を行った。実習前後に援助規範意識が安定する群と変化する群があり、変化する群は実習を経験することで専門職としての援助観を獲得することが明らかになった。 笠修彰・命婦恭子・阿南寿美子・篠木賢一・末寄雅美

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表) 1. 保育者養成における実習日誌に関する考察Ⅱ－保育現場へのヒアリング調査から見えてきたもの－	共著	令和4年5月	日本保育学会第75回大会（ポスター発表）	保育実習等で経験の振り返り学習に用いられる実習日誌について、学生の学びがより深められる日誌様式や指導のあり方についての研究の第2報となる。保育現場で実習指導担当者へのヒアリング調査を行い、多くの実習担当者が日誌の時系列表記を必要と考えていること、また視点が深まるような様式を求めていること、新しい様式の導入への課題や難しさなどが明らかとなった。 島田知和・阿南寿美子・脇信明・古林ゆり・金子幸・上原真幸・末寄雅美・藤本朋美
2. 保育者を対象とした生活体験プログラムについて②－保育者体験講座の参加者の感想の分析を中心に－	共著	令和4年9月	日本生活体験学習学会第24回大会（自由研究、口頭発表）	福岡県飯塚市庄内生活体験学校における野外活動プログラムの実践研究の発表である。飯塚市内の保育者を対象に、畑作りや芋掘り、苗木づくり、蜂蜜採取などのプログラムを実践することで、ゆくゆくは庄内生活体験学校を活用する保育活動や職員研修のプログラムを構築することを目的としている。20年度から実施したプログラムの中間報告となる。 宮嶋晴子・末寄雅美・桑原広治・正平辰男・原和也

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
福岡県八女市子ども子育て会議 (八女市子どもの貧困対策会議)	委員、会長	2016年9月～現在に至る (2024年9月迄)
柳川市保育協会保育士会研修部会	助言講師	2006年4月～現在に至る
福岡県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2018年8月～現在に至る
九州保育団体合同研究会	分科会運営委員	2018年8月～現在に至る
NPO ドングリ研究部会	研究・実践担当	2020年9月～現在に至る
九州保育団体合同研究会	4・5歳児保育、運営委員	2018年8月～現在に至る
福岡県八女市子育て支援員講座	講師	2019年6月～現在に至る
熊本県保育士会新任保育士研修会	講師	2022年5月
福岡県みやま市保育士会研修部会	研修部会講師	2022年7月 (直前に中止)

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育科学科長 2020年4月～現在 ・ 人事委員会 副委員長 2020年4月～現在 ・ 教学マネジメント会議 2023年1月～現在 ・ 入試会議 2020年4月～現在 ・ 西南女学院将来計画委員会 2022年4月～現在 ・ 学校法人西南女学院評議員 2020年4月～現在 ・ 西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園 幼稚園運営委員 2018年4月～現在 ・ 西南女学院高校との高大連携事業・5年生への学科紹介 (2022年6月) ・ 折尾愛真高校との高大連携授業(2023年1月) ・ 高校における進路ガイダンス (北九州高校(7月・3月)、ひびき高校(7月)、若松高校(3月)) ・ 高校生への学科紹介(直方高校(7月)、折尾高校(8月)) <p>他、学生募集のための高校訪問の実施、学科ブログやInstagram更新等の学生募集活動</p>